巻頭言

Z　旗

増　本　純　也

「まことに小さな国が，開花期をむかえようとしている。四国は伊予松山に，三人の男がいた。〈中略〉かれらは，明治という時代人の体質で，前をのみみつめながらあるく。のぼってゆく坂の上の青い天にもし一朶の白い雲がかがやいているとすれば，それのみをみつめて坂をのぼってゆくであろう。」NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』のオープニングです。ここで言う『三人の男』とは正岡子規，秋山好古，秋山真之のことをさします。

信州大学大学院医学系研究科分子病理学に在籍しておりました増本純也と申します。信州大学在職中は公私ともども大変お世話になり，ありがとうございました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。愛媛大学に着任して半年余が過ぎました。当初は愛媛大学大学院医学系研究科ゲノム病理学分野教授に着任し，二週間後に全学機構の愛媛大学プロテオ医学研究センター専任の教授に配置換えとなり，医学系研究科ゲノム病理学分野教授は兼務となりました。おかげさまで，現在，病理解剖や診断業務を行いながら，微力ではありますが医学研究を，無細胞蛋白質合成技術を応用した学際的な蛋白質生命化学の側面から展開させるべく機構の改革に取組んでおります。このたびは，畏れ多くも名誉ある信州医誌の『巻頭言』への執筆を仰せつかり，このような機会を頂けたこと，大変光栄に存じます。愛媛大学は伊予松山に本部を置く6学部21学科を擁する総合大学です。前学長の小松正幸先生は諏訪清陵高校のご出身で，信州との縁を感じております。ところで，愛媛大学が私のような若輩者を選考し，医学系研究科の教授を兼務にしてまで，重要な役回りをつとめさせる原因となったのは，以下ご紹介させて頂きますような特異な経歴によるところもあるのかも知れません。

私は富山医科薬科大学薬学部を卒業後，再受験で信州大学医学部に入学した半端者です。おもてに出ることはありませんでしたが，当初から研究指向でした。学1の頃には生化学の橋本 隆教授の教室に通い，長期の休みに肝ペルオキシソーム酵素の実験をさせて頂きました。年末の休みにだれもいない教室で，世界でまだ誰も気づいていない，教授すらまだ見ていない，新規脂肪酸代謝酵素の長鎖脂肪酸基質特異性を示す分光光度計の針が描く曲線を，リアルタイムで眺めているという贅沢を味わいました。私がこの発見に関わったということは出版物のどこを探しても痕跡すらありませんが，後日，先天性酵素欠損症の発見を耳にした際には感慨深いものがありました。詳細は省かせて頂きますが，大学院に進学し，分子腫瘍学の谷口俊一郎教授・相良淳二助教授のもとで蛋白質複合体であるインフラマソームの中心分子ASCの発見に関わり，有機化学，分析化学，生化学のトレーニングを受けられたことは，現在の研究手法の基礎となりました。その後，勝山 努教授の臨床検査部で，それらの応用である臨

床分析検査と外科病理学のトレーニングを受けられたことは，現在の研究領域への展開となりました。現在では，インフラマソームを活性化する原因の多くが，病理学総論的に，様々な病理組織学的変化の原因とされる物理学的，化学的，生物学的因子に含まれていたものであることがわかりました。蛋白質化学と病理形態学がつながったのです。スティーブ・ジョブズの「点と点がつながった」ようなものです。振り返ってみますとこれまでの道程は，大掛かりな設備に頼らず，文字通り，「上をのみみつめて坂をのぼって」いけばよかっただけです。ところが，最近は，小さくても発見できればよい方で，「だれもがそう思っているけどだれも確かめていない」ことを確かめるような研究に大掛かりな装置と巨額の資金が必要な時代です。一方で，研究を行う信州大学や愛媛大学のような国立大学法人では人員削減，交付金の減額，人件費の削減と暗い話ばかりです。

明治と言う時代は，「上をのみみつめて坂をのぼって」いけばよかった時代でした。史実と異なると論議になる点を恐れずに言えば，明治日本の発展を支えたのは生糸の生産です。信州には生糸所縁のものが多くあります。線維学部の前身の『上田蚕糸専門学校』，岡谷や諏訪の紡績工場の女工哀史『あゝ野麦峠』，そしてニュー・クイックの『カタクラモール』など枚挙に暇がありません。信州の養蚕業と製糸業の発展によって秋山好古・真之兄弟の活躍があったのかも知れません。しかし，日露戦争後の日本には閉塞感が漂い始めます。正岡子規も俳句雑誌『ホトトギス』を創刊しながら若くして結核で他界しています。ところが幸いにも子規の遺志は伊藤左千夫を中心とした『アララギ』派に引き継がれ，信州富士見の地で復活していくことになるのです。

愛媛大学医学部では，独立法人化前後の定員削減によって，基礎医学教室が疲弊した反省をうけ，以前の定員に戻しています。訳の解からない教室名や診療科名も以前のものに戻すことが決まりました。人員削減，交付金の減額，人件費の削減といった時代の要請にあらがうような施策が進められています。いま行わなければ次の時代が失われるという危機認識で，『もうひと花』を狙っています。毎日『Z旗』が掲げられているような気分です。

NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』のエンディングに，美しいスタンド・アローンの調べとともに登場する壮大な稜線のむこうの『坂の上の雲』は，みなさまがよく見慣れた白馬大池から小蓮華山を経て白馬岳にいたる稜線から連なる『坂の上の雲』です。いずれこの点と点がつながるのかは定かでありませんが，信州から遠い愛媛の地で全力を注ぐ所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。さいごに母校の発展とみなさまのご活躍をこころより祈念いたしております。　（2012年10月）

（愛媛大学大学院医学系研究科ゲノム病理学分野
プロテオ医学研究センター自己炎症・自己免疫疾患病理解析部門教授）